

〔第21回 学術集会テーマセッション3〕

発達障害児の親へのペアレントトレーニング

国際医療福祉大学

荒木田美香子

大阪大学

奥野 裕子

神奈川県

毛利 栄子

近年の母子保健では発達障害児の早期発見とその児や保護者への適切な対応が大きな課題となっている。その対応の一つとしてペアレントトレーニングがある。グループを対象としたものだけでなく、個人を対象としたものもあり、多様なペアレントトレーニングあるいはペインティングプログラムが世界各国で展開されている。それぞれのプログラムが対象とする年齢や重点の置き方に違いがあり、それらを理解したうえでペインティングトレーニングを活用することは家族の育児能力を向上させるために有意義である。

Centers for Disease Control and Prevention (CDC) は2009年にMeta-analysisを行い、保護者の育児スキルと行動、および子どもの具体的な行動に変化が見られると報告している (U.S. Department of Health and Human Services Centers for Disease Control and Prevention, 2009)。また、先行研究ではNurse-Family Partnership, Positive Parenting Program, The Incredible Years, Strengthening Families Program: For Parents and Youth 10-14, Staying Connected with Your Teen の5つのペアレンティングプログラムが子どもの問題行動を減少させるために効果的であると報告している (Haggerty, McGlynn-Wright, Klima, 2013)。日本においても複数のペアレントトレーニングが展開されている。発達障害を持つ子供の親を対象にしたプログラムや虐待防止目的としたプログラムなどがある。いずれも保護者の気づきを通して保護者の育児能力を高め、ひいては家族機能の強化につながるものである。本テーマセッションでは、大学が中心となって実施しているプログラムと、行政が中心となってモデル事業として実施したプログラムの活

動を紹介し、ペアレントトレーニングの可能性について検討することを目的とした。

本セッションでは、3つの実践を報告した。まず、奥野氏が開発した発達障害児を持つ保護者を対象としたグループによるペアレントトレーニングの実践とその効果の検証について報告があった。さらに、発達障害を持った子どもたちにソーシャルスキルの育成に取り組んでいることも報告された。次に毛利氏から神奈川県で育児支援政策の一環として、NPOを活用した4種のペアレントトレーニングプログラム、Nobody's Perfect (完璧な親なんていない！ 略称：NP, Positive Parenting Program 前向き子育てプログラム：トリプルP, 赤ちゃんが来た：BPの実施状況, コモンセンスペアレンティング：CSPとその評価) について展開状況と効果について報告があった。さらに荒木田からは、発達障害の理解とペアレントトレーニングを合わせた講習を幼稚園・保育園・小学校の教員に行い、教員の保護者支援能力の向上に向けた実践を報告した。参加者からはプログラムの展開方法や評価に関する質問の他に、参加者の取り組み事例が紹介され、取り組みの拡大と評価結果の積み上げの必要性が確認された。

文 献

- U.S. Department of Health and Human Services Centers for Disease Control and Prevention: Parent training Programs: insight for Practitioners. http://www.cdc.gov/violenceprevention/pdf/parent_training_brief-a.pdf. (2009)
- Kevin P. Haggerty, Anne McGlynn-Wright, Tali Klima: Promising parenting programs for reducing adolescent problem behaviours. *Journal of Childrens services*. 8(4): 10, 2013